

26P-am09

沖縄産ヒルギカズラ葉部の光毒性抑制成分の研究

○寺道 望美¹, 杉本 幸子¹, 山野 善¹, 大塚 英昭², 松浪 勝義¹ (¹広島大院医歯薬, ²安田女大薬)

【目的】医薬品の副作用として光毒性がしばしば問題となる。今回我々は、沖縄産マメ科植物ヒルギカズラ (*Dalbergia candenatensis*) 葉部に *in vitro* 光毒性防御作用を見出したので活性成分の探索を行った。

【方法】ヒルギカズラの乾燥葉 (2.8 kg) をメタノール抽出し、濃縮後に溶媒分配した。光毒性抑制活性の見られた 1-ブタノール画分について分離・精製を行い、Compounds **1-11** を得た。得られた化合物について MS、NMR スペクトルなどの解析により化学構造を決定した。また、活性試験法として BALB/3T3 cloneA31 細胞を用い、96well プレートで光毒性抑制試験を行った。各化合物の希釈系列を光毒性誘発物質クロルプロマジンとともに細胞に曝露し、UVA を 30 分間照射した。Neutral Red 取り込み試験によって生存細胞を染色し、吸光度測定によって UVA による光毒性抑制率を算出した。

【結果】新規化合物 **4** 及び **7** を単離し、絶対立体配置を含めた構造を決定した。また光毒性抑制活性試験を行ったところ、新規化合物 Compound **4** を含む 6 化合物に活性がみられた。

